

## 会 議 録

|       |  |      |    |      |    |
|-------|--|------|----|------|----|
| 会議の名称 | 令和3年度 第7回小牧市市民活動促進委員会  |      |    |      |    |
| 開催日時  | 令和4年3月28日（月）午後1時30分から午後3時まで  |      |    |      |    |
| 開催場所  | 小牧市役所東庁舎 1-1会議室  |      |    |      |    |
| 出席者   | <b>【委員】</b><br>秦野委員長、三島副委員長、戸成委員、竹中委員、伊藤委員、丹羽委員、西村委員、堀尾委員、藤本委員<br><b>【事務局】</b><br>伊藤課長、大塚係長、溝畑 |      |    |      |    |
| 傍聴の可否 | <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否                               | 傍聴定員 | 5名 | 傍聴人数 | 0名 |
| 会議次第  | <b>【内容】</b><br>1 開会<br>2 議題<br>・令和3年度市民活動推進事業実績報告について<br>・令和4年度市民活動推進事業計画について<br>3 その他         |      |    |      |    |
| 問合せ先  | 小牧市健康生きがい支え合い推進部支え合い協働推進課市民協働係<br>電話番号（0568）76-1629（直通）<br>ファックス番号（0568）75-8283                |      |    |      |    |

## 会 議 内 容

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 令和3年度市民活動推進事業実績報告について

※資料1に基づき事務局より説明

(秦野委員長)

コロナの影響で団体も事業がやりにくかったこと、テラスの利用者も少なくなった。

そのような事業報告を踏まえ、質問、気になることなどあれば発言を。

(秦野委員長)

こまき地域づくりフォーラムは、何人来場され、どのような人が来たか、また、感想がわかれば報告してください。

(事務局)

参加者は100人弱。コロナの影響で積極的に告知できなかった。

また、ソーシャルディスタンスを確保するため、市民会館大ホールで行った。

地域協議会の役員や実際に活動している方、区長、民生委員が多かった。アンケートでは、地域協議会の事例が参考になったという感想があった。

一色小学校区の農園の例は、桃ヶ丘小学校の菜園を活用する動きに繋がっている。

北里小学校区の花苗配布活動は、小木小学校区でも検討している。

(竹中委員)

市民討議会は、無作為抽出ということだと、性別や年代で偏りはないのか。

何人抽出して、どのくらい応募があるのか。

(事務局)

抽出のときに、バランスを調整している。

今年度は、2500人に案内を出し、48名の申し込みがあった。抽選で定員の40人まで減らし、実際当日参加したのは28人となった。

#### (2) 令和4年度市民活動推進事業計画について

※資料2に基づき事務局より説明

(三島副委員長)

市民活動祭は3年に1度の開催とのことだが、開催しない年の事業がどうつながってくるのか。

(事務局)

コロナ禍で、代替事業として団体交流会を開催した。団体から、つながる場がない、困っていることがあるということで、その点をフォローするようなものとした。

(三島副委員長)

課題を可視化することはよいことだと思う。助成金申請や協働提案事業につながる

ことはあるか。

(事務局)

参加した団体が助成金を検討している流れはある。助成金団体から課題を出してもらった。

(戸成委員)

テラスの活用について、支え合いいきいきポイント交換業務は引き続き行うが、契約を分離したということによいか。

(事務局)

ポイント業務は、指定管理業務とは別であるため、契約を分離した。

(戸成委員)

令和4年度の独自の事業はないか。

(事務局)

市民活動祭がメインとなるため、新規事業としては市民活動祭のみとなる。

(事務局)

市民活動祭は、団体としても事務局としても負担が大きいため、ほかの新規事業はなかなかできない、

(伊藤委員)

テラスの事業は増えているが、予算は下がっているように思うが。

(事務局)

ポイント業務の予算が約140万円なので、別契約となるその分を差し引きすると、ポイント事業以外の事業の分については、増えている。

(秦野委員長)

テラスの指定管理事業のほかに、こまき市民活動ネットワークとしての事業がほかにもある。その部分を説明してください、

(事務局)

独自事業としては、企業や団体にSDGS宣言を行ってもらい取組みを始めた。SDGSに関するワークショップなども行っていく。

また、こまきこども未来大学のコーディネートを行い、こまきこども未来大学から市民活動祭にも出展してもらえるようにする。

(秦野委員長)

市としても、SDGSの関連の事業が実施されていくようです。

ほかに質問等あれば。

(西村委員)

地域に還元チャレンジ助成金が、2回限りというのほどの理由か。

この助成金があったので活動できたものが、ずっとやっていきたいが2回で終わりとなるとその先が見えない。代わるようなシステムはないのか。自分たちの会費でやっていかなければならないのか。市の継続的な支援はないか。

(事務局)

市民活動助成金もあり、ひろげる部門は1団体3回、つなげる部門は1事業につき3回受けることができる。最終的にはつなげる部門では異なる事業であればまた3回受けることができる。

(西村委員)

もっと簡単に申請できないと面倒。継続的な軽いシステムがあればと思う。今後も困った人のために活動したいと思っている。

(事務局)

提出書類が多く、わずらわしいと思われる方もいるが、助成金は、市の税金から出ている。税金を使う責任、説明責任がある。

(戸成委員)

助成金は税金なので、1つの活動に永続的に支援するものではない。将来的には自力で活動できるようにしていってもらうためのもの。また、その事業が不可欠な事業であれば、協働提案事業で市の事業へつなげるという仕組みとなっている。

(西村委員)

市が助けていないところを団体が支援している。困窮者が多くおり、市が考えて助けてくれればいいが、手が届かない部分で活動しており、ボランティアではできない部分、お金がかかる部分がある。

(事務局)

補助金には終期設定が必要だが、協働提案事業化制度に制限はない。実際助成金を受けた事業で協働事業に発展している例もある。

自主財源の確保をどうするかという悩みも多い。団体のニーズに合った講座をワークショップでも企画できるようにしたい。

(秦野委員長)

小牧の仕組みはよくできている。必要な事業は、市民提案だったものを行政提案に切り替えてやっていくということもある。

段階的な制度であるこのも、携わらないとよくわからないこともある。テラスでもサポートをお願いしたい。

(堀尾委員)

協働提案事業は、回数の制限は、ないということでよいか。

(事務局)

採択されると3年間は実施することができ、続ける場合は、再提案をして、採択されればまた3年実施することができる。

(竹中委員)

市民討議会の無作為抽出は、バランスをとって抽出しているということなので、「年代や性別に配慮した上で無作為抽出している」という形にしてはどうかと思う。

(丹羽委員)

今年度、初めていろいろ制度を知って勉強になった。

(戸成委員)

小牧市の制度はよくできている。市民団体に伝わりきっていないところが課題かと思う。

(三島副委員長)

生活困窮者の支援は、今後の重要課題かと思うが、例えば、地域協議会の中で地域として取り組むこともできるかと思う。

行政が委嘱している委員やそれが元になった協議会活動についても、高齢化して、新たな人材がないという問題が起きている。そこに市民活動団体が協働して貢献できる部分もあるかもしれないと思う。

ただし、委員会の回数は限られているので、どの点に焦点を当てて検討するか考えないといけない。

(事務局)

複数の地域協議会ではお助け隊が立ち上がり、見守り活動などを行っている。

花苗配布活動も、見守り活動が目的となっている。

(伊藤委員)

まだコロナの影響は続くと思うが、SDGsがまだ地域にまで浸透していないのではないかと考えている。若い世代は社会課題に目を向けているので、課題解決に学生などとともに進めていけたらいいのではないかと思う。

(西村委員)

勉強になった。それを所属している団体に還元できたと思うので、あと1年がんばりたい。

(藤本委員)

助成金があると助かると思う。助成金が団体の体力づくりのためのものということは腑に落ちた。

気になったのは、助成金を受けていた団体が、助成金は受けなくてもやっていけるようになった団体はあるか。

(事務局)

無事に自立できた団体もいる。

(秦野委員長)

これまでの助成金交付団体の総括のようなものがあってもよいと思う。助成金を必要なところに届けていけたらと思う。

(戸成委員)

SDGsは社会貢献や環境問題ということではなくて、持続可能な世界とするための「行動変容」ということを理解してもらいたい。

以上